

予定価格の誤りによる入札中止に係る対応状況について

先般発生した予定価格の誤りによる入札中止への対応については、令和2年11月10日開催の企画総務常任委員会に報告したところである。

その際、今後速やかに実施するとしていた再発防止策等の進捗状況を取りまとめたので報告する。

1 発生事案の概要

令和2年9月23日に開札した「世田谷区立千歳中学校校舎棟改修工事（R3耐震1期）（一般競争入札）」において、入札準備作業中に項目追加した「開口部養生」の数量誤入力による予定価格の誤りが判明し、同年10月12日に入札手続きを中止した。

2 再発防止の考え方

再発防止に向けては、財務部及び施設営繕担当部により営繕工事の予定価格積算業務の検証を行い、起工課を中心とした組織的チェックの強化と職員の意識改革に取り組むこととした。（別紙フローチャート参照）

3 再発防止策の進捗状況

（1）チェック体制の見直し・強化

①全項目チェックの徹底

数量内訳書の全項目チェックの重要性を職員に再徹底し、確実に実施している。

②効果的な方法によるチェックの推進

ア) 公益社団法人日本建築積算協会（以下「積算協会」という。）の助言をもとに、視点を変えた複層的なチェックを複数人で行っている。

・担当者は、小項目から大項目へ順に全項目を確認し、他のチェック者は、逆に大項目から小項目へと方向を変えて確認している。

・係長は、主に営繕積算システム（RIBC2）の並べ替え機能を活用し、極小・極大値の抽出チェックを行っている。

イ) 人力に頼らないソフトウェアの活用方法を検討している。

・既存のソフトの活用方法として、例えば、設計委託の中で図面から数量を算出するソフト等の利用について確認し、起工課の担当者は、同ソフトで

は対応できない項目や、設計図書完成後の変更内容のチェックに注力するといった方策が考えられる。引き続き他自治体の活用例や積算協会等への情報収集を行い、実用に向けた検討を進める。

③修正内容の記録作成・活用

設計図書完成後に設計図書に修正が生じた場合、担当職員以外にも該当箇所がわかるよう、修正内容の記録として新たに「工事費概要書」を作成している。

工事費概要書では、設計時の工事費の内訳と修正後の内訳を対比させ、その増減理由を記載することで、変更項目が一目でわかるように工夫している。

④契約担当課によるチェック

起工課のチェック完了後、契約担当課においても、工事費概要書をもとに設計時からの変更内容・金額を再点検するとともに、過去の工事契約案件を工事内容で類型化し、類似案件との比較により積算チェックを行う。

(2) 実効性の高いチェックリストの整備・運用

(1) の各チェックの標準化と実効性を高めるため、「職員用積算チェックリスト」を新たに整備し運用を始めている。

チェックリスト作成にあたっては、積算協会の助言を仰ぎ、①項目のダブル計上と計上漏れ、②修正項目の数量等の入力間違い、③数量、単価の桁間違い、④室数、階数の倍数違い、⑤単位の記載間違いを積算誤りにつながる主な原因とし、これらに留意したチェック項目を設定している。

(3) 適正なスケジュール管理と再発防止策定着への取組み

起工課において、契約担当課との連携のもと、各案件の設計業務完了から入札公告までの作業スケジュールの共有化を進め、組織的かつ効率的作業管理を徹底し、職員の数量内訳書を含む設計図書の確認、調整期間の確保に努めるとともに、係会等により定期的・継続的な注意喚起と協働意識の醸成を図っている。

4 再度公告入札について

入札中止とした本案件については、設計図書を再点検のうえ予定価格の誤りを修正し、一般競争入札による再度公告入札として、11月11日に公告している。

5 今後のスケジュール（予定）

令和2年12月24日 再度公告入札案件開札

令和3年 2月 企画総務常任委員会（再度公告入札に係る契約案件報告）

2月 令和3年第1回区議会定例会に契約議案提案

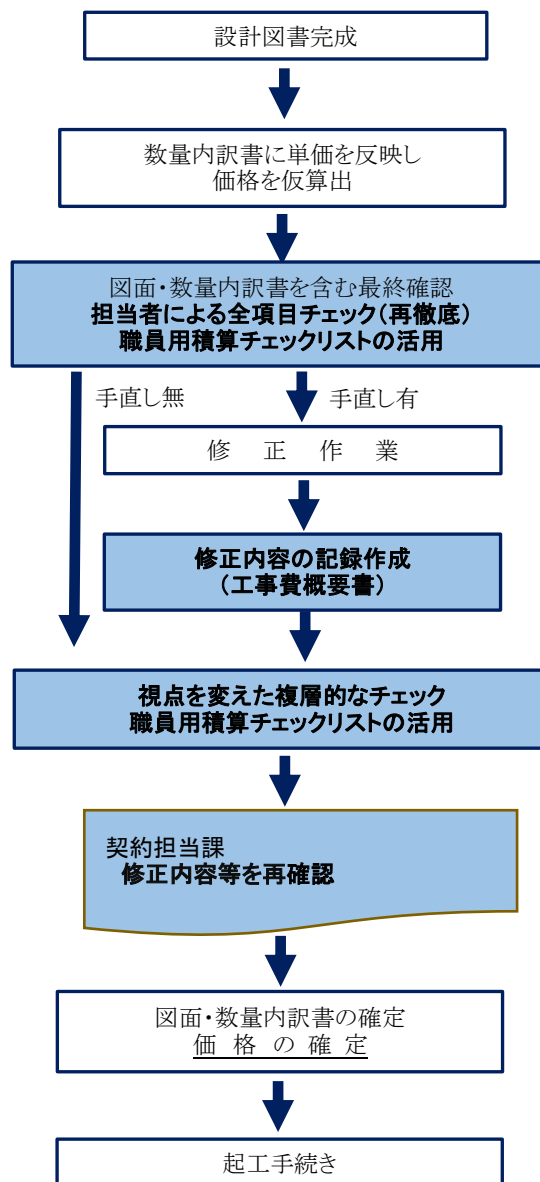
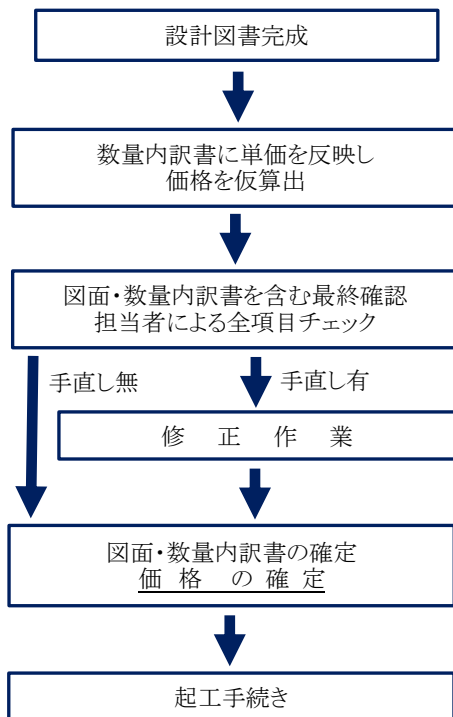
入札公告までのフローチャート

これまでの流れ

見直し後

入札準備作業
(主に営繕工事起工課が
実施)

入札手続き
(契約担当課が実施)



契約担当課
入札参加通知時に参加事業者に
のみ図面・内訳などの図書を提供

契約担当課
入札公告の時点で図面・数量内
訳を公表